

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課、地域開発課	主管課長名	今井 克紀
5-1	施策名	計画的な土地利用の推進	関係課	企画課、建設課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度			
	計画的な土地利用が、市民の適切な関与の下に秩序を持って行われている。	市内全域	①桜川市域面積	km ²	見込値	180.06	180.06	180.06	180.06	180.06		
実績値					180.06	180.06	180.06	180.06	180.1			
②市街化区域の面積			ha	見込値	8.51	8.51	8.51	8.51	8.51			
				実績値	8.51	8.51	8.51	8.51	8.51			
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度			
					①土地利用計画の策定実績件数	件	目標値	0	5	11	11	11
							実績値	0	35	35	35	35
					②住民自治組織の設立実績件数	件	目標値	0	5	11	11	11
実績値	0	0	0	0			0					
③土地利用マネジメントの実績件数(市街化調整区域)	件	目標値	0	3	3	4	4					
		実績値	0	0	0	0	2					
④土地利用マネジメントの実績件数(市街化区域)	件	目標値	3	2	2	10	10					
		実績値	1	4	4	4	2					
成果指標設定の考え方	「①土地利用計画の策定実績件数」は、市街化調整区域における地区計画等の策定件数とする。 「②住民自治組織の設立実績件数」は、住民発意による行政区等単位のまちづくり計画等の策定件数とする。 「③土地利用マネジメントの実績件数(市街化調整区域)」は、市街化調整区域内の立地行為のうち地区計画の特認制度の適用実績件数とする。 「④土地利用マネジメントの実績件数(市街化区域)」は、市街化区域内の開発行為のうち法定協議の事前調整制度の適用実績件数とする。											
成果指標の把握方法と算定式等	①土地利用計画の策定実績件数、②住民自治組織の設立実績件数、③土地利用マネジメントの実績件数(市街化調整区域)(5カ年累計)及び④土地利用マネジメントの実績件数(市街化区域)(5カ年累計)は、実績件数から求める。											

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)	
背景・要因	①土地利用計画の策定実績件数は、令和2年度実績値35件に対して令和3年度実績値35件で、成果としてはほとんど変わらない。 ②住民自治組織の設立実績件数は、令和2年度実績値0件に対して令和3年度実績値0件で、成果としてはほとんど変わらない。 ③土地利用マネジメントの実績件数(市街化調整区域)は、令和2年度実績値0件に対して令和3年度実績値2件で、成果としては向上した。 ④土地利用マネジメントの実績件数(市街化区域)は、令和2年度実績値4件に対して令和3年度実績値2件で、成果としては低下した。 【背景・要因】 ①土地利用計画の策定実績件数が令和3年度の実績件数が件数がほとんど変わらない理由は、平成30年度に目標値を早期達成したことによる。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った <input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった <input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景・要因	①土地利用計画の策定実績件数は、目標値11件に対して実績値35件で、目標値を24件上回った。 ②住民自治組織の設立実績件数は、目標値11件に対して実績値0件で、目標値を11件下回った。 ③土地利用マネジメントの実績件数(市街化調整区域)は、目標値4件に対して実績値2件で、目標値を2件下回った。 ④土地利用マネジメントの実績件数(市街化区域)は、目標値10件に対して実績値2件で、目標値を8件下回った。 【背景・要因】 ①土地利用計画の策定実績件数が目標値を上回った理由は、平成30年度に目標値を早期達成したことによる。 その他の成果指標については、人口減少に伴う土地需要の低下が要因と考えられる。	

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和3年度成果があった活動は、「都市計画の決定又は変更に関する事務」である。 「都市計画の決定又は変更に関する事務」については、令和2年度から進めている産業計の地区計画の決定等に向けて、市内内部での手続きは予定通り進捗させることができた。 当初予定していた令和4年度当初での施行は、県及び検察の都合によりやや遅延しているが、令和4年度中の施行に向けて順調に進捗している。	令和4年度中に施行する予定の地区計画に基づいて、開発許可等の事務増加が見込まれるため、速やかな対応ができるよう準備を行う。 今後は長期未着手の都市計画道路見直しなど、懸念となっている都市計画に関する案件について着手していくことが課題である。